

図書だより

石川県立松任高等学校図書室
平成 26 (2014) 年 5 月発行

小満 (しょうまん 5月21日～6月5日)

新緑の美しい季節となり、草木や花の命が満ちてくるためつけられた節季名です。さわやかな五月晴れ、ぐずついた五月雨どちらも命を育てるためには、天からの大切な恵みです。

1年生にとっては初めての試験も終わり、少しずつ学校生活に慣れてきたころだと思います。日々の勉強も大切ですが、書物や新聞にも目をむけてみませんか。



今月のおすすめ本

今月は、ドラマや映画の原作本を紹介します。

ドラマ「ビター・ブラッド ～最悪で最強の親子刑事～」原作

『ビター・ブラッド』 栗井脩介／著

新人刑事の佐原夏輝とベテラン刑事の島尾明村。コンビを組んだこの2人は生き別れた実の親子だった。ある日、捜査一課の係長が殺害され、捜査本部は警察内部に犯行に関わった者がいると判断。2人は事件の渦中へ巻き込まれていく。

ドラマ「弱くても勝てます～青志先生とへっぽこ高校球児の野望～」原作

『弱くても勝てます』 高橋秀実／著

日本一の東大進学率を誇る超進学校・開成高校。その硬式野球部が 2005 年夏の甲子園出場をかけた東東京大会でベスト 16 に入った。毎回初戦敗退の常連校に何が起こったのか？その謎に迫るべく取材を始めた著者は、野球の常識を覆す独自の練習方法と理論を目の当たりにする。

映画「WOOD JOB! ～神去なあなあ日常～」原作

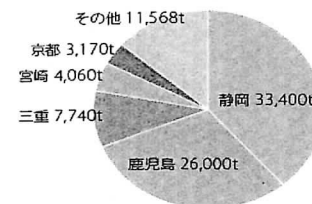
『神去なあなあ日常』 三浦しをん／著

進路未定のまま高校を卒業した平野勇氣。自分の知らない間に担任教師が応募していた林業の雇用支援制度に当選したことで、卒業式終了後そのまま三重県の山奥にある神去村へ向かう羽目に。村の住人たちとのふれあいと林業の仕事を通して主人公の成長を描く青春お仕事小説。

新茶と八十八夜

立春（節分の次の日2月4日頃）から数えて88日目となる「八十八夜」の頃から6月までにかけて摘みとられたお茶を「新茶」といいます。新茶には昔から「不老長寿」のご利益があるといわれ、江戸時代には縁起物として扱われていたそうです。現在では、お茶の成分である「カテキン」は微生物を殺菌する効果があり、風邪予防によいといわれています。また、「八十八」という字を組み合わせると「米」という字になることから農家の人たちにとっても大切な日だそうです。

2012 お茶の生産地

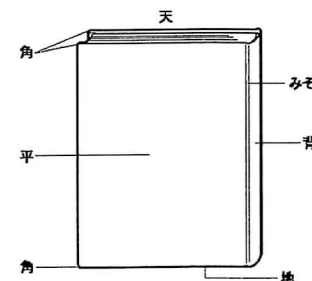


出典：農林水産省統計データ



本のつくり その2

前回は本の内部の名前について紹介しました。今回は本の外側の名前です。1冊の本の中に、いろいろな名前がついています。



作家クイズ

わたしは誰でしょう？

(答えは次号で)



『ロミオとジュリエット』『ハムレット』が有名



「みにくいアヒルの子」「マッチ売りの少女」が有名



兄弟で童話をつくりました。



生物学者です。「昆虫記」を作りました。

4月号の答え

左から 川端康成、樋口一葉、夏目漱石、宮沢賢治